71

『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』に掲載された解剖所見

安西なつめ
日本大学

『コペンハーゲンの医学・哲学紀要 Acta medica et philosophica Hafniensia（Acta med. phil. haf.）』（1673–1680）は，コペンハーゲンの医学者トマス・バルトリン（Thomas Bartholin, 1616–1680）によって刊行された．この紀要には，デンマーク国内，および，刊行時デンマークの統治下にあったノルウェーとアイスランド，加えて，オランダやドイツといった周辺諸国からの医学・自然学に関する報告が，短い論考の形で 595 題収録されている．収録論考の主題は，医学一般，新奇な動植物の報告，様々な実験の結果，地学・気象・鉱物の報告など多岐にわたる．このうち医学一般に類する論考には，各種の症例，負傷による怪我とその治療，死因，解剖の所見，病気や死の兆候，妊娠・出産，奇形などに関する報告が含まれる．

紀要に収録された解剖の報告例には，次のようなものがある．

コペンハーゲン大学の化学および植物学の教授で，1675–1676 年のコペンハーゲン大学学長，オーレ・ボルク（Ole Borch, 1626–1690）によって報告されたスコットランド人の解剖（Anatome nobilis Scoti. Acta med. phil. haf. 1673; 1, No. XCI: 179–180）．解剖されたスコットランド人は瀉血などの治療後に亡くなった．死因を調べるため，肺，肝臓，脾臓，腎臓の状態が記録された．

オランダの宮廷医ヨハン・ハインリヒ・ブレヒトフェルト（Johann Heinrich Brechtfeld, 1626–1699）によって報告された肺に異常が見られた高齢者の解剖（Anatome vetulae ulcere pulmonis laborantis. Acta med. phil. haf. 1675; 2, No. XIV: 30–34）．この解剖は，当時，ライデン大学の医学教授であったシルヴィウス（Franciscus dele Boë Sylvius, 1614–1672）が，1663 年 2 月 9 日にライデンの病院で行ったと記されており，肝臓，脾臓，肺，腎臓などの状態が記録された．

トマス・バルトリンの義理の息子で，コペンハーゲン大学の医学，哲学，歴史の教授オリガー・ヤコビウス（Oliger Jacobaeus, 1650–1701）によって報告された女性の解剖（Anatome feminae morbosae. Acta med. phil. haf. 1677; 3, No. LXIV: 105–106）．解剖時の腹膜，腸，脾臓，腎臓の所見が記され，胸部の水腫などが記録された．また，この報告には図版が一枚付されており，食道下端から直腸までの臓器が一括で描かれ，病理的な特徴が記録されている．

デンマークには，北欧で最初の公開解剖施設（Domus Anatomica）が 1644 年に設置された．施設はコペンハーゲン大学敷地内の建物を利用して設置され，当時コペンハーゲン大学の解剖学，植物学，外科学の教授だったシモン・パウリ（Simon Paulli, 1603–1680）が最初の解剖を行った．デンマーク国内で行われた解剖には，この施設が利用されたと考えられる．また，当紀要に収録された解剖の報告には，オランダなど国外からの報告も含まれるが，解剖は必ずしも刊行当時に実施されたものではなく，実施後 10 年以上経過してから掲載されたものもあった．